

【個人】

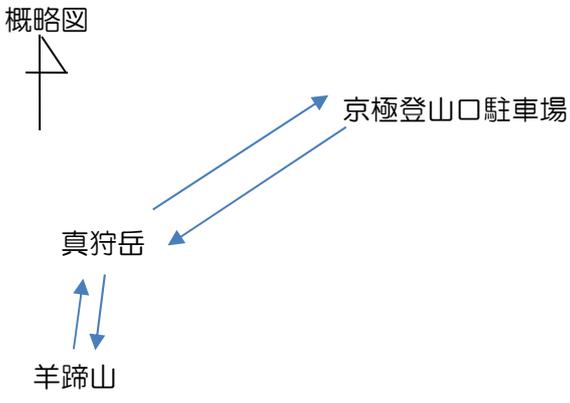
提出 2025年9月18日

# 山行報告書

※ 大宮岳稜会 連絡先：遭難対策委員長／会長 阿部 080-1063-3181

※ 遭難対策副委員長 鈴木 090-7422-7022 ※ 遭難対策委員 岩田 090-3214-0294

山行計画提出者：鎌田

<b>山域・山名：羊蹄山（1898m）</b>		北海道京極町
入山日：2025年9月5日(金) 日帰り		帰宅日：9月5日(金)
プラン担当者 正：鎌田康 副：木村正紀		概略図 
参加者 L：鎌田 報：中村 記：鎌田 木村正紀  男3名、女名、計3名	天候 快晴	
	9月4日(木)	集合時間：午前6時00分 集合場所：大宮駅西口 大宮駅西口 6:00 出発 → 11:00 新潟港フェリー乗場 出航 12:00 船内泊
9月5日(金)	4:30 小樽着-6:30 京極登山口駐車場着 6:45 登山開始-7:48 二合目 7:53-10:17 六合目 10:22-12:44 真狩岳 12:55-13:04 羊蹄山頂上 13:18-13:25 真狩岳 13:38-15:10 六合目 15:15-16:55 二合目 17:00-17:50 京極登山口 18:20 → 20:30 ニセコ有楽ホテル	
9月6(土)	小樽市内及び函館五稜郭観光 ニセコ有楽ホテル 8:30 → 16:45 小樽港フェリー 出航 17:00 船内泊	
9月7(日)	9:15 新潟港着 → 15:30 大宮駅	
装備と食糧	共同装備 ツェルト(各自)、熊よけスプレー(2)、模擬ピストル(3) 車提供者：(鎌田)	
	個人装備：ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、虫除けスプレー、非常食、着替、サングラス 個人食：昼食	

感想

前日正午に新潟港を出発したフェリーボートは翌朝 4:30 に小樽港に入港。すぐ車で羊蹄山京極登山口に向かう。登山口の小さな駐車場には既に数台の車が駐車していた。若干肌寒いが空は晴れわたり、蝦夷富士とも称されるコニーデ型の立派な山容を眺めながらの登山を開始。朝 6:45。途中、水場がないのでいつもより多めの水を詰め込んだ重いリュックを担いでの出発だ。

京極登山道は、いくつかある羊蹄山の登山コースの中では一番高度が高いところから始まり短時間で登れるコースだが、その険しさから敬遠され、真狩コースなどとは違い人気があるコースではないようだ。我々は、時間的な制約と熊の目撃情報が少ないことから、このコースを選んだのだが、このコースの厳しさは余り考慮していなかった。それまで緩やかだった登山道は三合目を過ぎると徐々に厳しくなる。幾度も両手を使ってよじ登らなければならないような箇所が続くので、次第に体力の消耗を感じるようになる。高度約 400m の登山道入り口から約 1900m の頂上まで 1500m をほぼ直登に近い登山道を登るのは、容易ではない。結局頂上に着いたのは午後 1 時過ぎで、登りだけで約 6 時間もかかってしまった。このコースは、9 合目付近から歩きにくい岩稜地帯に出るが、岩場の登はんはそれほど難しくはなく、むしろ樹林帯の方が難儀する箇所が多かった。頂上付近の景観は特にカルデラ状の火口内部の眺めが素晴らしかった。すり鉢状の広大な火口は、なめらかな茶碗の内側のようになで、その底の部分には、少し水が溜まっているのか緑が見えた。頂上からは、山の麓の小さな家々や色とりどりの美しい畑など眺めることができた。周囲の山並みは穏やかで北海道ならではの広大な景観を楽しむことができた。下りは、同じ険しい道を下りていかねばならないが、滑りやすいので更に難儀することが多かった。注意しながらゆっくり下っていったが、下山するまでに何回か尻もちをついたり、転がったりしたので駐車場に到着するまでには皆泥だらけになってしまった。京極コースは、決して高齢の登山者には、勧められない険しく辛いコースだということを身を持って痛感した。脚や膝の痛みを耐えながらゆっくり下山してきたこともあり、駐車場に着いたのは 6 時近くになってしまった。行動時間は休憩も含めて約 11 時間。下山を始めるとすぐ、遠くから聞こえ始めた雷鳴は徐々に近づいて来て、水滴がぽつりぽつりと降ってきたりもしたが、幸い雨具を着るほどの降りにはまらなかったのがありがたかった。泥だらけの服を着替えてから車に乗りこみ、スマホで日帰り温泉施設がないか探す。結局、京極町の食堂で夕食をとってから日帰り温泉施設には行くことにした。腰の曲がった 90 歳は超えるとおもわれる女主人が一人で切り盛りする小さな食堂で、おすすめのカレイの煮付けと野菜炒めの定食を食べたあと、日帰り温泉で入浴し、ニセコのモーターに移動し、宿泊。翌日は函館や小樽市内をそれぞれ観光したあと、夕方、新潟行きのフェリーに出航時間ギリギリに乗船することができ無事帰路に就くことができた。後方羊蹄山の京極コースは決して勧められないが、新潟小樽間のフェリーボートを利用した優雅な船旅は、楽しく高齢者向きだと思う。